

施策評価シート(平成23年度の振り返り、総括)

作成日 平成 24 年 5 月 22 日

施策	27	生涯学習の推進	主管課	名称	教育課	関係課	まちづくり交流課(地域振興)
				課長	柳 健		

施策の目的	対象 (誰、何を対象としているのか)	対象指標	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度見込み	把握方法
	①生涯を通じて自主的に学習する。	①町民	A 人口(外国人を含む)	人	22,924	22,591	22,194	21,727	
B									
C									
D									
意図 (対象がどのような状態になるのか)		成果指標 (意図の達成度を表す指標)	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	設定の考え方と把握方法
①生涯を通じて自主的に学習する。		A 日頃から、生涯学習を行っている町民の割合	%	35.0	34.1	-	19.3		A)直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。 町民アンケートにより把握 ※あなたはどの程度、自らの教養を高めるための学習活動を行っていますか。→「ほぼ毎日」、「週に1日以上」と回答した人の割合 ただし、平成21年度までの数値については、日頃からテーマをもって学習していますか。→「している」、「どちらかといえばしている」と回答した人の割合
	B								
	C								
	D								
	E								
	F								

住民と行政との役割分担	1. 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	2. 行政の役割 (町がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	①自主的に生涯学習をする姿勢を持ち、啓発活動をしてもらう。 ②自らが学び、自らが指導者を目指し、後継者育成を行いその分野の発展に寄与してもらう。 ③文化活動団体の活動に積極的に参加してもらう。	1)町がやるべきこと ①町民が適時に学習できるように生涯学習に係る情報の提供を行う。 ②文化活動のPR活動(町のイベント・他団体が実施するイベント等への後援) ③文化活動団体への人的・財政的支援 ④学習活動の場と学習機会の提供 ⑤環境の整備(施設・蔵書など)

1. 施策の成果水準とその背景・要因	1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）	2) 他団体との比較（近隣市町村、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）	3) 住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか、その他の特徴は？）
<p>①日頃から生涯学習を行っている町民の割合は、平成21年度34.1、平成23年度19.3%と約15%減少している。アンケートの設問や選択肢の違いによる場所が大きいと考えられる。また、震災の影響も多少なりともあるのではないかと。年代別にみると、20歳代が35.2%と最も高い割合となっており、40歳代13.9%で低い割合となっている。さらに、20歳代で「ほぼ毎日」が17.6%と高いことから、就職難の中、採用試験等に向けての学習の意識が高まったのではないかと。</p> <p>②社会教育施設の利用者数は、水上公民館平成22年度8,500人→平成23年度9,054人、中央公民館平成22年度14,777人→平成23年度12,689人、カルチャーセンター平成22年度23,112人→平成23年度25,005人となっている。文化活動を行うための町民の利用者数はほぼ横ばいである。水上・中央公民館の利用率は高い状態にあるが、新治公民館の利用頻度は低い。利用者が他の施設に移ったり、夜間はB&G海洋センターにて鍵の貸しだしをしており、管理上の影響もあると考えられる。</p> <p>③図書の貸し出し者数は平成21年度6,709→平成22年度5,963→平成23年度6,624人となっている。原因は明確ではないが、平成22年度はこれまで図書室を頻繁に利用していた親子が母親の就労等により、一時的に減少したのではないかと考えられる。また、平成23年度は国の補助金を活用して、新刊図書を大量に購入したことも寄与していると考えられる。</p>	<p>①カルチャーセンターは沼田文化会館に比べ、適切な規模であったり使用料も低く設定しているなど、使いやすい状況にあり、町外者の利用も多い。</p> <p>②図書館のない自治体は、県内35市町村の内みなかみ町を含め14町村である。</p> <p>③文化協会の活動は、近隣市町村と比べても自主的に企画立案しており、活動内容の充実(研修会、講習会、後継者育成等)が図られている。</p> <p>④一般に公民館講座と呼ばれているような町民向けの学習講座が少ない。</p> <p>⑤東京芸術大学の卒業作品の寄贈事業は本町のみ取り組みであり、他団体との比較はできない。なお、取手市(東京芸大取手校舎あり)と台東区(東京芸大本校舎あり)は卒業作品を買い取る事業を行っている。</p>	<p>①住民の期待水準は高く、現状の状況が水準に見合っていないと感じている住民は多い。文化活動をしていない一般町民が手軽に学びたいという声があり、公民館講座の再開を希望する声がある。</p> <p>②各団体の講習会等開催チラシ配布などの依頼や後援等の支援要望が多く、なるべく対応している。文化祭の会場設営では、各団体から手伝いを出していただいて設営運営しているなど、住民の意識は高まっている。</p> <p>③図書室に置かれている本を検索することができないなどの声がある。</p> <p>④生活に密着した講演会等は人気もあり町民の関心が高い。</p> <p>町民アンケートによると、この施策に対する満足度は、満足4.1%、やや満足17.3%、やや不満9.2%、不満2.7%となっている。</p>	
2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括	3. 施策の課題認識と改革改善の方向		
<p>①文化活動補助事業において、文化・社会教育の振興を図るため、公募により、活動団体に対して補助金(計570千円)を7団体に交付した。金額は少額であるが、生涯学習の推進、文化活動の促進に大いに寄与した。</p> <p>②町内文化団体で組織する文化協会へ文化振興の推進に寄与する事業に対し補助金を交付したことで、文化教養講座5講座の実施や文化祭の開催が行われ、文化水準の向上、生涯学習への意欲の向上へ繋がった。講座の運営もそのほとんどを文化協会で行っている。</p> <p>③社会教育委員連絡協議会において、社会教育に関する諸計画の立案、会議の開催、研修会へ参加したことで、社会教育委員としての資質の向上ができた。</p> <p>④平成23年度に元NHKキャスター松平定知氏を招いて生涯学習大会をカルチャーセンターで開催した。講演会その他に中学生による少年の主張や文化協会加盟団体の活動発表、体育指導委員(スポーツ推進委員)によるスポーツ吹き矢の実践を行ったところ250人も参加があった。また、生活に密着した講演会を公民館大会議室で開催し、「たった1分で人生が変わる片付けの習慣」をテーマにした講演を行ったところ75人の参加があった。参加者も多く、町民の関心が高いことがうかがえる。</p>	<p>①中央公民館について、エレベーターを設置するなど、一般利用者が手軽に利用できる施設の整備、車イス利用者が利用可能な整備等を行う必要がある。</p> <p>②カルチャーセンターは生涯学習の拠点施設と位置づけしており、生涯学習の住民サービスを向上させるために貸出事業だけでなく、自主事業を考える必要がある。</p> <p>③利根沼田地域の福祉の増進と文化の発展に寄与するため利根沼田広域市町村圏振興整備組合で設置した文化会館の維持管理に要する費用として、文化会館負担金(25,459千円)を支出したが、町民利用に寄与しているかどうかの検証が求められている。</p> <p>④図書室のあり方を検討する場(機会・組織など)がないので、以下の課題を解決するための組織等の設置の必要性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用形態として、子ども連れの利用者が多いことを考慮すると、安全安心に遊べる場所のキッズスペースを整備することも考えられる。 ・車社会であるため、3地区に点在している図書室を1箇所に集中して図書館とし、専門書を含め蔵書数を増やすことも考えられる。 ・利用者にアンケートをするなど、利用者の意向調査を実施する必要がある。利用者数を増やすため、蔵書数を増やし、蔵書管理(データベース化)が必要である。 <p>⑤全ての町民を会員とするなどすれば文化活動は進むと思われる。また、防災・災害対応、子育てサポート、近隣独居老人への対応やコミュニティ形成のため、婦人会の会員(平成23年度244人)を増加させたい。現代社会を考えた場合、婦人会という組織について議論を深める必要が生じている。</p> <p>⑥公民館講座を再開するなど、学習機会を増やすことなどが課題として残っている。</p>		